

平成 28 年度地域教育行政懇談会の開催結果の概要について

1. 議題

スマートフォンやゲーム機等の使用の適正化について

2. 日程・出席者等

地域・日程	地域関係者		市町(組合)教育委員会	
	氏名	役職	氏名	役職
丸亀・坂綾 7月25日	十河 靖典	丸亀市PTA連絡協議会会長	詫間健太郎	丸亀市教育委員会 教育委員
	明石 正子	坂出市婦人団体体育成連絡協議会会長	山本 憲治	丸亀市教育委員会 教育委員
	長尾 猛	坂出市子ども会育成連絡協議会会長	岩田 理香	丸亀市教育委員会 教育委員
	中井 直樹	坂出市PTA連絡協議会会長	片岡 元子	丸亀市教育委員会 教育委員
	中野盛太郎	宇多津町立宇多津小学校PTA広報委員長	金丸 眞明	丸亀市教育委員会 教育長
	三木 邦彦	宇多津町立宇多津北小学校PTA会長	斉藤 恵子	坂出市教育委員会 教育委員
	久松 敬史	綾川町PTA連絡協議会会長 綾川町立綾上中学校PTA会長	高尾 正彦	坂出市教育委員会 教育委員
	山崎 雅子	綾川町立綾南中学校PTA会長	中橋 孝彦	坂出市教育委員会 教育委員
			國重 英二	坂出市教育委員会 教育長
			前田 寛文	宇多津町教育委員会 教育委員長
			大石 光昭	宇多津町教育委員会 教育委員
			合田 幸生	宇多津町教育委員会 教育長
			香西 弘志	綾川町教育委員会 教育委員
			川田 喜義	綾川町教育委員会 教育委員
	三観 7月26日	山下 泰	一ノ谷自治会代表 学校評議員	大久保健二
石川 裕子		観音寺市補導員 民生委員	齋藤 悦子	観音寺市教育委員会 教育委員
島田 洋		観音寺市PTA連絡協議会会長 観音寺市立大野原中学校PTA会長	行天 武夫	観音寺市教育委員会 教育委員
資延 妙子		三豊市民生委員 児童委員協議会連合会児童福祉部会副部長	出演 利章	観音寺市教育委員会 教育委員
建林伊都子		三豊市少年を守る会副会長	大平 幸男	観音寺市教育委員会 教育長
藤村 瑞穂		三豊市公民館主事	大浦 茂	三豊市教育委員会 教育委員
			藤田 京子	三豊市教育委員会 教育委員
			則久 郁代	三豊市教育委員会 教育委員
			三好 覚	三豊市教育委員会 教育委員
			小山 利幸	三豊市観音寺市学校組合教育委員会 教育委員
			藤田 善秋	三豊市観音寺市学校組合教育委員会 教育委員
			國土セツ子	三豊市観音寺市学校組合教育委員会 教育委員
			小野 英樹	三豊市教育委員会 教育長 三豊市観音寺市学校組合教育委員会 教育長

地域・日程	氏名	役職	氏名	役職
高松 7月27日	山下 祐一	高松市立桜町中学校学校評議員	神内 仁	高松市教育委員会 教育委員
	池添 聖子	高松市立幼稚園・高松市こども園 PTA連絡協議会会長	木場 巳男	高松市教育委員会 教育委員
	山田 士郎	高松市PTA連絡協議会会長	葛西 優子	高松市教育委員会 教育委員
	大西 輝清	高松市青少年健全育成市民会議会長	藤本 泰雄	高松市教育委員会 教育長
	森 綾子	高松市スポーツ推進委員連絡協議会副会長	多田 葉子	三木町教育委員会 教育委員
	今城 広治	木田郡・三木町PTA協議会会長	宮本 悟	三木町教育委員会 教育委員
	宮下 信代	木田郡・三木町PTA協議会副会長	市川 隆義	三木町教育委員会 教育長
	津郷 香織	直島町立直島中学校PTA本部役員	下津 公恵	直島町教育委員会 教育委員
	高崎真由美	直島町立直島小学校PTA副会長	原 貴	直島町教育委員会 教育長
仲善 7月29日	大平 一徳	善通寺市PTA連合会会長	福家 葉子	善通寺市教育委員会 教育委員
	櫛田 隆夫	善通寺市子ども会育成連絡協議会会長	若宮 道男	善通寺市教育委員会 教育委員
	久利 和子	善通寺市中央地区主任児童委員	森 正司	善通寺市教育委員会 教育長
	森藤 泰生	琴平町立琴平中学校PTA会長 琴平町PTA連絡協議会会長	森井 幹夫	琴平町教育委員会 教育委員
	高城久美子	琴平町立琴平中学校PTA役員	大林 正和	琴平町教育委員会 教育長
	洲賀崎陽子	多度津町PTA連絡協議会会長	田中 公敏	多度津町教育委員会 教育委員
	山下 美博	まんのう町社会教育委員	塩田 明雄	多度津町教育委員会 教育委員
	阿宅伸一郎	まんのう町立仲南小学校PTA副会長	富田 哲弥	多度津町教育委員会 教育委員
			田尾 勝	多度津町教育委員会 教育長
			三原 一夫	まんのう町教育委員会 教育長
小豆 8月29日	岡見 珠美	県ネット指導員（土庄町教育委員）	河原 陽文	土庄町教育委員会 教育委員長
	諸石 正宣	土庄町立土庄小学校PTA会長	佐々木育夫	土庄町教育委員会 教育委員
	濱野 雅人	土庄町立土庄中学校PTA会長	山崎 勝美	土庄町教育委員会 教育委員
	松江寿美雄	小豆島町PTA連絡協議会会長 小豆島町立池田小学校PTA会長	藤本 義則	土庄町教育委員会 教育長
	照下 操	みんなで子どもを育てる県民運動推進員 苗羽公民館主事	熊坂 泰忠	小豆島町教育委員会 教育委員
	宮本美千代	みんなで子どもを育てる県民運動推進員 福田公民館主事	後藤 巧	小豆島町教育委員会 教育長
東讃 8月31日	西尾 由香	さぬき市PTA連絡協議会会長	細川 哲士	さぬき市教育委員会 教育委員
	廣瀬雄一郎	さぬき市PTA連絡協議会副会長	徳田二三男	さぬき市教育委員会 教育委員
	松村ハルミ	さぬき市教育委員会事務局生涯学習課 家庭教育コーディネーター	日向和加子	さぬき市教育委員会 教育委員
	川田 浩子	東かがわ市母親代表委員会委員長	得丸 慶子	さぬき市教育委員会 教育委員
	坂東 美鈴	東かがわ市PTA連絡協議会顧問	岡 裕子	さぬき市教育委員会 教育委員
			安藤 正倫	さぬき市教育委員会 教育長
			向山 正裕	東かがわ市教育委員会 教育委員
			大久保尚子	東かがわ市教育委員会 教育委員
			山本 勝博	東かがわ市教育委員会 教育委員
		竹田 具治	東かがわ市教育委員会 教育長	

3. 地域教育行政懇談会の議題に関する意見の概要

スマートフォンやゲーム機等の使用の適正化について

(現状について)

- ◆今の子どもは同世代が少なく、会話・コミュニケーションの手段がスマホのLINEになっている。LINEで繋がっていないと不安になるようだ。
- ◆「夜9時までには使用をやめます」という啓発について、保護者は二極化していると感じる。LINEは便利だが、グループでのやり取りなので、一人でも入ってくるとやめられない。保護者に対する教育が重要だと感じるが、聞いてほしい人に聞いてもらえない。
- ◆学校でもスマホのLINEでのやり取りがトラブルの原因になっており、先生も踏み込み難いと思う。親も子どもの実態を知らない面が多くあり、危惧している。
- ◆子どもにゲーム機を買い与えると、読む本の冊数が減った。家庭の事情・世代の差の問題があり、話し合うにしても多岐にわたり、非常に難しい。
- ◆小・中学校では、広報紙作成のため、年度当初に写真掲載の了解を取っているが、運動会等のシーンを了解もなくYouTubeに載せる保護者がおり、保護者同士でトラブルの原因になっている。
- ◆子ども同士がチャットで書き込みしてエスカレートし、相手を傷つける内容になり、ネット監視していた学校から保護者に連絡があった。
- ◆ネット依存や出会い系サイトの被害、高額請求、写真を勝手に送られたという、一人ではどうしようもない問題があり、保護者や地域の連携が必要になっているが、更にスマホが発達し、問題が大きくなっていると思う。
- ◆保護者と子どもたちを取り巻く環境・状況が変わってきている。30代前後の保護者は生まれた時からネット環境が整っており、その子どもには、1・2歳の頃からネットを使わせている。
- ◆ベビーカーの中でゲームをする等、小さい頃からスマホが手放せない環境にあり、保護者もスマホの画面を見て子どもを見ていない現状がある。脳の発達が3歳で80%、6歳で90%、12歳で100%という大事な時期に、スマホによる影響が大きいのではないか。家庭教育をもっと大事にすべき。学校に入る段階では遅いと思う。
- ◆5歳児がスマホの音声認識機能を使ってアマゾンで買い物をしたと聞き、不安になった。子どもの方が知識を持っており、子どもが小さい時から親への教育が必要である。
- ◆スマホ・ゲーム機は、子どもたちの学習意欲を削ぐような存在で、年々ひどくなっていると思う。現実と仮想世界の区別がつきにくくなり、人とのコミュニケーション能力がつかなくなるのではないかと心配もある。
- ◆視力の低下や、メールが気になり学習できない子どもたちも多くおり、スマホ使用と学力には関係があると思う。
- ◆〇〇中学校で調査した結果、スマホの保有率は23.6%、携帯電話の保有率も10.9%と低いが、逆にゲーム機の保有率は85.5%と高くなっている。LINE等の使用は65.5%と高くなっており、スマホ・携帯よりタブレット端末・ゲーム機等でLINE等を使用している生徒が多い。ネットで知り合った人がいる割合は12.7%(7人)で減少しているが、今後も指導が必要である。
- ◆〇〇中学校で、自分の名前や写真が勝手に使用された生徒2人、メールが原因で喧嘩になった生徒2人、ネットで知り合った人から執拗にメールが送られてきた生徒1人、自分のIDが盗まれた生徒1人がおり、今後も継続した指導が必要である。特に家庭で決めたルールがない割合が34.5%であった。スマホの使用時間について、月～金曜日で1時間以上使用が50.9%(28人)おり、ゲーム機の使用が多いと考えられ、家庭学習の時間についての指導が必要である。新入生周知会等で小学6年生とその保護者を対象に、ネット使用の危険性について話をしている。PTA総会時に「さぬきっ子の約束」についての協力依頼をしている。
- ◆〇〇小学校でも調査した結果、タブレット端末の使用が大きく増えている。
- ◆〇〇市で6月にスマホ・携帯に係る調査を行ったところ、保有率は小学生36%、中学生50%、使用時間は小学生1時間以内が59%、中学生1～3時間44%、3時間以上10%、使用ルールの作成は小学67%、中学生48%である。スマホ等を持つことの禁止はできないが、持たせるのであれば家庭で責任を持って教えなければならない。子どもの前で親がスマホ等を使用することは見直していかないといけない。

(ルールづくりについて)

- ◆「綾歌中PTA安心スマホ宣言」の後に、夜9時に終われるよう、最後の合言葉として、「あやバイ」を生徒会が決めて今年度からやっている。夏休み明けにアンケートを実施し、次にどうするかPTAと生徒会で一緒に進めていく。アンケートは情報収集だけでなく、保護者や子どもにとっても宣言文を浸透させるために役立つと思う。
- ◆「綾歌中PTA安心スマホ宣言」にある「保護者もスマホについて勉強します」は、アンケートによれば、7割は守れて3割は守れていないので、PTAからのメールシステムで、スマホの勉強ができる関連記事のアドレスのリンクを載せて、月一回中学校の保護者向けに配信している。
- ◆ある学校の取組みの中に「守れない人を0%にしたい」とあるが、他の学校の報告では大きな成果が出ておらず、非常に難しいと思うので、県教育委員会がスタンスを示すのが良いと思う。
- ◆先進的な事例の中で、生徒会自身で考えているところがある。自分たちが決めたことなので、守る比率も高くなると思う。そういった取組みができるような環境にすればよい。
- ◆〇〇中学校の約束の中に「使った後は〇〇に置きます」とあるが、ある高校の先生が、スマホケースを布団に見立ててケースを作り、効果があったようだ。子どもの目線に立てば、抑えられる問題があると思った。
- ◆家庭でのルールとして、小学生の娘は、スマホは家の中だけで使用し、ゲームは一日30分以内としている。アプリは親の監視下で使用させている。
- ◆子どもには、初めてスマホ等を買って与える時にルールの話ができるとうい。子どもとは、メールやLINEをチェックできる関係を持てるようになればよい。
- ◆子どもと約束していても、自室に持ち込むと友達から連絡があると必ず返信するので、子どものスマホを親が預かる等しないと難しい。
- ◆中学生で携帯電話を持たせた時に、親の目が届く居間でしか使わないように約束した。塾後の友達とのコミュニケーションに困るので、我が家では11時まで使っていないことにしている。
- ◆子どもに夜9時の制限をするなら、親もそうしましよとすべき。家庭の事情があるので、一概に9時とは言えないが、決まりを決めてはどうか。
- ◆「さぬきっ子の約束」は、きっかけづくりとして非常に効果的だったと思う。実際にどれぐらい子どもに意識づけできたか、さぬきっ子安全安心ネット指導員による学習会の参加者にアンケートを実施できればと思う。
- ◆それぞれの家庭で何割がルールを作っているか、学校で年3回程度アンケートを取って、ルールづくりの状況を聞く等、親がルールを考える場が必要ではないかと思う。
- ◆親の希望・期待中心の「親の躾ルール」では、子どもはなかなか納得しない。ルールづくりに子どもがどこまで主体的に参加できているのかが問題である。
- ◆県教育委員会でルールづくりはできるが、実際に守らせるのは難しい。親子でよく話し合い、子どもの生活を見守るといふ基本的なところからまず見直さなければならない。親の成長を促すような取組みが、県教育委員会に求められているのではないか。

(家庭・親に関する意見)

- ◆ネットやスマホのトラブルの話をして、親に危機感が感じられず、皆自分の子どものこととして考えていない。講演会を開いても来てほしい保護者が来ないので、その子どもにも伝わらない。
- ◆フィルタリングについての知識を持っていない保護者がいる。
- ◆まずは保護者がゲームを控えないと子どもは親の真似をする。課金も大人から控えなければと思う。LINEも大人が使い方を考えないといけない。
- ◆若い保護者は、子どものスマホ・ネット使用に罪悪感がないので、幼稚園・保育所で勉強させるべきだと思う。科学的に脳の発達に害があることや、スマホの害をもっとアピールした方がよい。
- ◆親に対して、子どもにスマホを使用させることが「リスクを与えている」という再認識にどう持っていくかが一番の課題ではないか。
- ◆スマホ等を子どもに持たせるべきではないが、持たせるなら保護者が十分に分かった上で進めていった方がよいのではないか。
- ◆連絡手段として親が軽い気持ちで持たせている。うちの子だけ持っていないと仲間外れにされそうという気持ちで持たせている親もいるが、その後の管理ができていない家庭が多い。保護者同士で話し合う場があってもよいと思う。
- ◆学習会で、アクティブラーニングのような一緒に話し合う機会を持つことを考えている。大人と

子どもでグループワークをして、お互いの常識のようなことを伝え合うことも大事なのではないかと思っている。

- ◆色々なトラブルに巻き込まれないためのパンフレット等の啓発は、役立っている。小さい子どもはトラブルになると思っていないので、通信する権利があると共に、責任があることをもっと子どもたち自身に分かってもらう必要がある。リーフレットに困った時の相談先があり、あくまで相談で解決してくれるわけではないが、親が上手く使って分かってもらうとよい。
- ◆昔は連絡していることが見えていたが、今は見えなくなっているので、家庭生活の中でも見えなくなったものを何らかの形で見えるように繋がるように伝わるように、親子で考える必要がある。
- ◆地域の環境づくりが上手くいけば、ゲームに走らず仲間と一緒に遊ぶ楽しさが分かると思う。

(行政・学校に関する意見)

- ◆県教育委員会のリーフレット等で、ネットやスマホが非常に危険で、子どもにとってデメリットが大きいことを分かってもらえるように広めてほしい。
- ◆いつも長期休暇前が心配なので、パンフレット等は、具体例を挙げながら夏・冬・春休み前に、頻繁に配布するのが良いのではないか。
- ◆「さぬきっ子の約束」のリーフレットを配布するだけでは、なかなか難しく実効性がないので、もうワンステップ進めた対応が必要である。
- ◆県教育委員会が作成したリーフレットが、きちんと保護者まで届いているのかが気になる。講習などもその場限りになっているのではないか。
- ◆周りの子どもがスマホを持つと、親も軽い気持ちで持たせている人が多い。スマホ・ゲーム機は家庭での使用が多くなるので、家庭での指導やルールづくりが一番である。親の正しい知識が必要だが、親はパンフレット等を見ないので、指導員による学習会や映像による勉強会の方が効果がある。
- ◆さぬきっ子安全安心ネット指導員の派遣は、基本的に保護者向けであるが、子どもだけを対象とした派遣もできるように変えた方が良いのではないか。
- ◆今までは「子どもにスマホを持たせない」だったが、現在は小学生でもスマホを持っており、どのように使うかを教えていかなければならなくなっている。スマホについては、知識を大人より子どもが持っているという問題があるので、今後の取組みとして、保護者への啓発や学校での教育が必要である。
- ◆子どもに判断できる力をつけるためにも、学校でネット利用の危険性を子どもたちに知らしめる必要がある。
- ◆高校生に対しても、出前講座等もっと積極的な活動をしていかないといけない。
- ◆保護者には「うちの子に限って」という思いがあるので、現実的な事例・情報がほしいと思っており、県教育委員会から情報提供してほしい。それを保護者が聞けば、もっと危機感を持ってもらえると思う。
- ◆子どもはLINEを自校内だけでなく、他校の子どもとも行っており、学校内だけのルールづくりでは対応が難しくなっている。スマホの使用時間については、県を中心として地域・家庭・学校で申し合わせをして対応する必要がある。保護者向けの会や学校で、スマホ等の扱い方の時間を設けて、具体的な問題事例の話をしてほしい。
- ◆スマホを持たせるにはルールが必要だが、家庭内だけではルールは守れない。友達とのやりとりで返事が返ってこない等が問題になるので、香川県全体でルールを決めてくれたらと思う。子どもはスマホ等でトラブルが起こることを認識しているので、携帯の使い方教室等、保護者も子どもと一緒に話を聞ける環境を作してほしい。
- ◆例えば「香川ノースマホデー」のような、親子でコミュニケーションできる日を設けても良いのではないか。
- ◆学校のPTAで取組むのはなかなか困難なので、まず県教育委員会の方で先進的な事例を教えてください。
- ◆赤ちゃんが泣いても、母親がスマホを触っており、母親に構ってもらえず愛情を受けられない子どもは、成長する中で、自我の発育に障害が生じるのではと心配している。母親にしっかり啓発活動をしてほしい。
- ◆ネット環境はどんどん進んでいくので、それに親も行政も対応して発信していかなければならない。地域の環境の問題もあり、親になりきれない親への教育も大切だと思う。